

令和7年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを文にする際に、助詞や長音、促音や拗音などを正確に使う書くことに課題がある。 相手の話をよく聞いて興味をもち、その内容を受けて自分の考えを話したり、感想を伝えたりする力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動により語彙を増やし、作文や日記に継続的に取り組ませて見直しの力を育てることで、文章表現の的確さを高めていく。【表現】 自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりする場面を意図的に設け、話をつなぐ言葉や感想を伝える言葉の例を示して、言語表現の幅を広げられるようにする。【対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> たし算やひき算を、図や絵に表して考え方を示すことに課題がある。 文章を読み解く力をつけることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物や半具体物を用いて、問題を捉える場面を授業で意図的に取り入れる。【表現】 自力解決の時間を十分にとることと同時に、交流する時間を確保し、課題解決の充実を図る。【対話】 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 生き物の世話を意欲的に行う姿勢に個人差があり、観察の視点に広く気付きをもつことに課題がある。 観察や活動、振り返り等で、したことや感じたこと、気付いたこと、考えたことを言葉や絵で表すことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 気付きを共有する時間を設け、個々の気付きを更に深めていく。【対話】 絵や文で表現する際のポイントを先に伝え、表現することへの見通しをもたせる。【発見】 思いや願いをもって活動し、感じる、考える、伝える、振り返るという学習の流れを意識して授業を展開していく。【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズム遊びでは、表現することに苦手意識のある児童がいる。 鍵盤ハーモニカの扱いや運指を課題とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現することが苦手な児童に対して、簡単なリズムからスモールステップで取り組み、慣れさせていくことで自信を付けていけるようにする。【表現】 ペアなどで交流して表現のよさを感じ取ったり、表現する喜びを味わったりすることができるようにする。【表現】 ICT機器を活用し、鍵盤ハーモニカの扱いや運指などを視覚的に捉えられるようにする。【発見】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> はさみを使って紙を切ったり、折ったり、のりを使って貼ったりする技能に個人差が見られる。 お手本として見せた作品や友達の作品の真似をすることに抵抗がなく、発想や工夫を感じ取って生かす作品作りが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人が自分の表現を楽しめるように、題材や技法、いろいろな表現方法を体験できる授業を展開していく。【発見】【表現】 製作途中でも、友達同士で作品を見合ったり、作品について話し合ったりする機会を設定し、一人一人の価値観を大切に、表し方のよさや面白さに気付かせる。【決定】【表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ボール遊びをする際に、ボールを扱う技能に課題がある。 固定遊具を使つての動きを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールを使い、つく・転がす・投げる・当てる・捕る・蹴る・止めるなどの多様な動きを経験させる。【発見】 学習カードを活用し ポイントを明確に示したり、活動を選択したりできるようにする。【発見】【決定】 ペアやグループでお互いに、アドバイスをするなど、関わり合いの場面を意図的に設定する。【対話】【表現】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を意識して書くことに課題がある。 文章を正しく読み取る力をつけることが課題である。 聞き手を意識して話すことや、要点を捉えながら最後まで聞くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文を書く学習ではメモを用いたり、はじめ、中、終わりの構成を意識させたりする指導を継続的に積み重ねていく。【表現】 読み聞かせや読書カードを活用し、読書量の確保と読書習慣を身に付けられるようにする。【決定】 ペアやグループでの活動で、自分の思いを伝えたり、他者の考えに触れたりする機会とそのふりかえり活動を意図的に設定する。【対話・発見】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> たし算やひき算を、図や絵に表して考え方を示すことに課題がある。 文章を読み解く力をつけることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を捉える場面で、具体物や半具体物を用いて授業を展開し、操作を通して図や絵に表す機会を意図的に取り入れる。【発見】 児童に合わせた手立てを取りながら自力解決の時間を十分にとると同時に、交流する時間を確保し、課題解決の充実を図る。【決定】【対話・表現】 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 観察や活動、振り返り等で、したことや感じたこと、気付いたこと、考えたことを言葉や絵で表す表現力をつけることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童どうしの関わり合いを大切にし、伝え合いの経験を積み、気付きの質を高める。【対話】 絵や文で表現する際のポイントを先に伝え、表現することへの見通しをもたせる。【発見】 思いや願いをもち、活動や体験をし、感じ、考え、表現するという学習の流れを意識した授業を展開する。【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 思いや考えを生かして音楽活動に取り組むことに課題がある。 鍵盤ハーモニカや歌唱などでの基礎的な技能の習得が苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループでの伝え合う活動を取り入れ、新しい思いや考えに触れる機会を取り入れる。また、児童の自由な表現を自己決定し、表現することの楽しさを味わえるようにする。【決定・表現】【対話】 ICT 機器を活用して、視覚的に分かりやすい指導を充実させるとともに、個別指導を充実させる。【発見】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 基礎技能（切る・折る・貼るなど）に個人差が見られ、見通しをもった取り組みに課題がある。 友達の作品について、感想を言葉にして表現したり、よい所を見付けたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作活動や生活の中に、基礎技能を意識的に取り入れ、技能が身に付くようにする。また、完成イメージをもたせ、自分で技法や材料を選択し製作できるようにする【表現・決定】 互いの作品のよい点を見付けて、伝え合う活動を取り入れる。【対話・表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動習慣や生活経験の差から、運動能力に大きな偏りが見られる。 運動の方法や場を工夫して活動を行うことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、体づくり運動を行い、体を動かす楽しさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりできるようにする。【発見】 学習カードや ICT 機器を活用しながら、運動のポイントを示したり、練習の場の選択に生かしたりする。【表現】 ペアやグループ、全体での学習がより効果的になるよう、話型を提示し、児童同士が関わり合う機会をつくる。【対話・表現】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えをもち、内容の中心をはっきりさせて分かりやすく文章に書き表す力をつけることが課題である。 新出漢字の習得や、語句の定着が課題である。 すすんで相手に伝えることに苦手がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識をもち伝えたいことを明確にしながら文章を書く機会を増やす。書くことに慣れさせる。視写の活用、段落構成の工夫などをして、分かりやすい文章作りを意識させる。【表現】 漢字学習では、計画的に小テストを実施し、家庭学習等で練習を繰り返し行い、定着を図る。また国語辞典を活用して語句を増やし語彙を豊かにしていくとともに、話や文章の中で使う意識を高めていく。【決定】 自分の意見や出来事を発表する機会を意図的に増やし、声の大きさ、間の取り方、視線など、伝える経験をもつ。【発見、対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題では、問題場面や数量関係を捉えて立式する技能に個人差がある。 かけ算九九、たし算やひき算、時刻と時間の意味の捉え方などの基礎的な知識、技能の定着・活用が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を用意したり、数直線や図に表したりして、問題場面や数量関係を視覚的に提示し理解できるようにする。【表現】 少人数クラスでは、習熟度に合わせた学習内容を工夫し、復習から始めたり、応用問題を取り入れたりしながら指導を充実させる。【決定】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 選択問題は比較的にできるが、記述問題に苦手意識があるなど、思考力、判断力、表現力等の向上が課題である。 実験や日常の生活から疑問や予想を立てることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かったことを表現し、共有できるようにする。【表現】 具体物やデジタル教材などを活用した自然事象を観察させ、関係性や傾向から問題を設定できるようにする。適宜、デジタル教材を活用し、既習事項の定着を図る。【発見、表現】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことから、新しい課題を見出し、追究しようとする態度に個人差がある。 地図や資料から読み取ったり、自分の意見や感想をまとめたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題が見出せるよう、日常の生活や社会に目を向けやすい資料やグラフなどを提示し、繰り返し問題解決型の学習に取り組めるようにする。【発見・表現】 様々な地図や資料を、手順を追って丁寧に読み取る指導をする【発見】 学習課題を明確にし、追究、解決する活動を取り入れて、考えたことや分かったことをまとめる学習活動を反復して行う。【発見・表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 正しい音量で鍵盤ハーモニカやリコーダーを吹くことに課題のある児童が2割程度いる。 曲の感じをつかむことに課題のある児童が3割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 師範を示して、1フレーズずつ音の出し方を確認しながら、スモールステップで取り組めるようにする。【発見・表現】 音楽を聴く時に、どこに注目して聴くのか、聴く視点を明確にする。教師から表現のための言葉の例を提示し、選んだ言葉をもとに自分なりに少しずつ書けるようにする。【表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 活動に意欲的で一生懸命取り組む児童が多い。自分が表現しているものに対して自信がもてない様子の児童がいる。 作業の見通しが立たずに計画された時間の中で作品を完成させられない児童が1割ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の授業を通して、互いに認め合う時間をつくる。頑張っている所や工夫している所は言葉にして具体的に伝える。【対話・表現】 新しい題材に入るときに全体の計画と完成のイメージを伝えるようにする。また毎回の授業におけるゴールを明確にする。【決定】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果から、走ったり、ボールを投げたりする運動感覚が十分に身に付いていない児童がいる。 技のポイントを理解し、自分や友達の良い動きを見付けながら運動できていない児童が3割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な運動感覚を養えるように、準備運動や予備運動などで取り入れる。【発見・表現】 技のポイントを図や動画、実演等で視覚的に見せることで理解させる。また、ICTを活用することで、自分や友達の動きをふり返ることが出来るようにする。【発見・表現】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 書く内容の中心を明確にし、段落の構成を考えたり、目的を意識した表現にしたりするなど、文章を整えることに課題がある。 正確に漢字や送り仮名を書くことに課題がある。 友達の考えを聞くことは好きだが、自分の考えを相手に伝えることに対しては苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書量を確保して語彙力を増やしながら、文章を書く機会を多く設定し、文を書くことに抵抗がないようにする。書いた文章を読み返すことを習慣付け、間違いを直し文章を整える指導をする。【発見】 国語辞典を日常的に活用できるよう指導する。【表現】 小グループでの話し合い場面を多く設定し、発言する機会や自分の考えを認められる場面を多く経験させるようにする。【対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 測定や図形の学習において、習熟度に個人差が見られる。 四則計算の習熟、特に、ひき算・わり算の習得が課題である。 計算の仕方や意味を図や表を用いて説明する力や、文章を読み解いて立式する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を生活に関連付けて捉えたり量感を養うために長さや重さをイメージしたりする場면을授業の中で意図的に取り入れる。【発見】 授業のはじめに既習事項の確認を行い、個別指導の充実を図る。【決定】 基礎的な問題でのつまづきを早期に発見し対処する。また、自力解決の時間、交流する時間を確保し課題解決型の授業を展開する。【表現】【対話】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や既習事項と結び付け、予想を立てることに課題がある。 実験結果から論理的に考え、考察したり結論を導き出したりする力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想を立てる際には対話する活動を取り入れ、相手と自分の共通点や相違点を基に、よりよい根拠を考えられるようにする。【発見】【対話】 考察の書き方の型を提示し、因果関係をはっきりと捉えられるようにする。【表現】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 東京都やその周辺地域などの地理的な知識等について、興味や経験の違いに、個人差が見られる。 資料から必要な情報を正しく読み取ること、それを根拠に社会生活の様子について考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かしつつ、経験との重なり、生活との関連を考えさせ、興味関心を高められるようにする。【発見】 図やグラフ、写真などを拡大表示するなど、分かりやすく示した上で、その読み取り方や着目点、活用の仕方を指導する。【決定】 資料を読み取って得た情報から考えられることを話し合い、それを根拠に社会生活について考えることができるようにしていく。【対話】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズム遊びでは、表現することに苦手意識のある児童がいる。 鍵盤ハーモニカの扱いや運指に、個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現することが苦手な児童に対して、簡単なリズムからスモールステップで取り組み、慣れさせていくことで自信を付けていけるようにする。【表現】 ペアなどで交流して表現のよさを感じ取ったり、表現する喜びを味わったりすることができるようにする。【表現】 ICT 機器を活用し、鍵盤ハーモニカの扱いや運指などを視覚的に捉えられるようにする。【発見】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> はさみを使って紙を切ったり、折ったり、のりを使って貼ったりする技能に個人差が見られる。 友達の作品にも関心をもっているがゆえに、真似をすることに終始してしまい、発想や工夫を感じ取って生かすことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人が自分の表現を楽しめるように、素材や技法などを工夫し、いろいろな表現方法を体験することができるようにする。【表現】 作った作品を見合ったり、作品について話し合ったりする機会を設定し、表し方のよさや面白さに気付くことができるようにする。【表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 得意・不得意によって運動に関わる意欲に個人差が見られる。 運動の特性を味わい運動の楽しさを実感する経験が少ない。 ICT 機器を活用した課題解決の学習の進め方が十分に身に付いていない。 ボール操作や器械運動などで、生活経験などによって個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「する・みる・支える・知る」の視点を意識した単元計画を児童と合意形成を取りながら設定する。【発見】 運動での成功体験を積みせ、「できた」、「楽しい」をたくさん実感できるようにする。 振り返りや記録表、課題を解決する道具として ICT 機器を活用し、課題を見いだしたり解決したりする方法を伝えていく。【表現】 体づくり運動を、年間を通して継続して行い、運動経験を豊富にしていく。【発見】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くことに苦手意識がある。 文章を正確に読み取る力に課題がある。 自分の考えを明確にして相手に伝えたり、相手の考えから自分の考えを広げたりする力をつけることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に書く機会を増やすとともに、「書くこと」の単元では、文章の構成を考えて下書きやメモをすることを繰り返し指導し、書くことに慣れさせる。【決定】 読み取るときのポイントや視点を与える等、読み取りの指導を丁寧に行う。【発見】 ペアやグループで伝え合う活動を取り入れ、互いの考えを理解できるようにさせる。また、構成を考えて話すことや要点を押さえて聞き取ることを意識させるために、交流の中でのメモの活用の仕方を指導する。【表現】【対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 単元や授業内容によって、学習意欲に個人差が見られる。 四則計算や、用具を正確に使って測定・作図をする技能の定着が課題である。 計算の仕方や意味を図や表を用いて説明する力や、文章を読み解いて立式する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習内容を生活に関連付けて捉えたり量感を養うために長さや重さをイメージしたりする場面を意図的に取り入れる。【発見】 単元で活用する既習事項の振り返りを授業の中で行い、個別指導の充実を図る。また、単元終了後も繰り返し復習する機会を与えることで定着を図る。【決定】 考えたことを図や数直線、表などを用いて表現し、自分の思考を整理しながら根拠をもって解決していく力を身に付けさせる。【決定】【表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題を自分事として捉えることに苦手意識がある。【発見】 自分の見いだした問題、考えた予想、検証方法、考察、結論に対して、他者の考えを十分に活かす力をつけることが課題である。 結論を導くまでの見通しをもつことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項や生活経験と結び付くような事象提示から、児童が自ら解決したいと思う問題の見いだしを行えるようにする。【発見】 自分と友達の考えを交流し、自身の考えについて再考する場面を設定する。【対話】【決定】 問題解決型の学習を継続して行っていくことで、活動の流れを身に付けさせる。【表現】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の現状や時事問題等に関心をもつ機会が少ない。 学習内容を自分事に近付けたり、生活経験と結び付けたりして考える力に課題がある。【決定】 資料から必要な情報を選択し、まとめる力をつけることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入で、児童の中にギャップが生まれるよう工夫し、調べたいという意欲が高まるようにする。【発見】 ICT 機器を活用して調べたり、グループ交流する場面を設けたりしながら、課題解決する活動を取り入れる。【対話】 授業の始めに学習問題を確かめたり、掲示したりすることで、常に意識をして資料の読み取りやまとめに取り組めるようにする。【表現】【決定】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、リコーダー、鍵盤楽器などの基礎的な技能の習得が課題である。 思いや意図をもって、音楽を表現したりつくったりする活動に取り組むことに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を活用したり、ペアやグループの学習を効果的に取り入れたりし、友達の見え方や演奏のよさに気付き、自分の表現や創作につなげていく。【発見】【表現】 目指す目標を明確にし、そのために必要な知識・技能をスモールステップで達成できるように指導していく。【決定】 魅力的な題材を選択し、児童一人一人のよさを引き出せる活動を計画し、互いによさを認め合う言葉掛けをする。【対話】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組むことに、個人差が見られる。 活動に対する気持ちが先行し、用具の正しい使い方に意識が向かなくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に取り組みやすい題材を設定する【発見】とともに、一人一人の価値観を大切に指導で、個別最適な学びのある授業を行う。【決定】 新しい用具を使用する際は、ICT 機器を活用しながら正しい用具の使い方を指導する。【決定】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 細かい作業をする際に得意不得意の個人差が見られる。 学んだことを生活に生かしたり、生活の課題を学習の中で解決する方法を考えたりするなど、学習と生活を結び付ける力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画などの ICT 教材を活用したり、技能の習熟の程度により、個別指導やグループ指導を行ったりするなど学習形態を工夫する。【発見】【対話】 家庭生活での実践を念頭に置いた学習のねらいを立て、「トライカード」等を活用して、実践・振り返りができるようにする。【決定】【表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動習慣や経験の個人差が大きく、運動習慣がない児童は外に出て遊ぶことが少ない。 学習に対し、見通しや目標をもって取り組むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードや学習資料、ICT 機器を活用することで、運動に親しみながら自分の課題をつかめるようにする。【発見】 個人だけでなく、ペアやグループ活動を取り入れることで、教え合いの場や、運動の仕方を選択することができるようにする。【対話・決定】 活動ごとに学習カードを使い ポイントを明確に示す。また、ペアやグループで見合い、アドバイスするなど、実態に応じた関わり合いの場面を意図的に設定する。【表現】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 話すことについて、音と文字を一致させることに課題がある。 自分の思いや考えを、自信をもって伝えられるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や ALT の会話を聞かせ、単語や文章の読み 方を十分に理解させた上で、児童同士の会話につなげる。また、教師や ALT の後に続いて発話する活動を設ける。【対話】【表現】 自分の考えをまとめる時間や【決定】、フレーズを練習したり互いの考えを聞き合ったりする時間を十分に取る。【対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第二小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くことに苦手意識がある。 文章を正確に読み取る力に課題がある。 自分の考えを明確にして相手に伝えたり、相手の考えから自分の考えを広げたりする力をつけることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に書く機会を増やすとともに、「書くこと」の単元では、文章の構成を考えて下書きやメモをすることを繰り返し指導し、書くことに慣れさせる。また意味が分からない言葉は国語辞典等で調べ、語彙力を高める。【決定】 読み取るときのポイントや視点を与える等、読み取りの指導を丁寧に行う。【発見】 ペアやグループで伝え合う活動を取り入れ、互いの考えを伝えやすい場を設ける。また、構成を考えて話すことや要点を押さえて聞き取ることを意識させるために、交流の中でメモを活用する。【表現】【対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 単位量当たりの計算や概数を求める問題に苦手意識をもつ児童が多い。 小数や分数の四則計算の定着が課題である。 計算の仕方や意味を図や表を用いて説明する力や、文章を読み解いて立式する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題や e ライブラリなどを活用して繰り返し練習する機会を与え、定着を図る。【決定】 小数や分数の計算方法について具体物や図などを用いて量感を意識しながら考えて理解を深め、繰り返し練習することで定着を図る。【表現】 問題場面が想像できるよう、図や数直線などを用いて表現し、根拠をもって解決していく力を身に付けさせ、互いに説明しあうことで理解を深めていく。【表現】【対話】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題—まとめ、予想—考察のつながりを把握する等、問題解決学習の過程において見通しをもつことに課題がある。 科学的に考え、考えたことを表現する力をつけることが課題である。 既習事項の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や既習事項を想起させながら、学習内容と結び付け、必要性をもたせる問題づくりの工夫をする等、児童の思いを基にして授業を展開していく。【発見】 問題解決型の学習（問題設定・実験方法・予想→全体共有、実験・結果、結果の共有・考察、結論）を継続して行い、活動の流れを身に付けさせる。【決定】【表現】 問題に対する予想、実験方法、結果、考察の交流を行いより学びを深められるようにする。【対話】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 歴史や政治の単元では、学習に対する意欲に個人差が見られる。 既習事項を、自分事として捉え、理解したことを表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ、そうなったのか。」「この後どうなるのだろうか。」という疑問を学級全体に生かしながら授業を展開する。【発見】【対話】 知識を覚えるだけではなく、既習事項を自分なりに言い換え、他の場に表現する機会を設け、個々の思考を見とれるように工夫する。【表現】【決定】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、リコーダー、鍵盤楽器などの基礎的な技能の習得が課題である。 思いや意図をもって、音楽を表現したりつくったりする活動に取り組むことに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を活用したり、ペアやグループの学習を効果的に取り入れたりし、友達の見え方や演奏のよさに気付き、自分の表現や創作につなげていく。【発見】【表現】 目指す目標を明確にし、そのために必要な知識・技能をスモールステップで達成できるように指導していく。【決定】 魅力的な題材を選択し、児童一人一人のよさを引き出せる活動を計画し、互いによさを認め合う言葉掛けをする。【対話】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容を理解しながら制作活動をしているが、自分の表現に自信を持てていない姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えを深められるような題材を設定するとともに、児童一人一人の考えを認め合う場を設定し、【対話】一人一人の価値観を大切にしている指導で、個別最適な学びのある授業を行う。【決定】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 児童の生活経験に個人差があり、学習内容によっては見通しがもちづらい。 学んだことを生活に生かし、生活の課題を学習の中で解決する方法を考えたりするなど、学習と生活を結び付ける力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画資料を用いたり、習熟の程度でグループ別指導を行って教え合ったりする活動を取り入れる。【発見】【対話】 家庭生活での実践を念頭に置いた学習のねらいを立て、「チャレンジカード」等を活用して、実践・振り返りができるようにする。【決定】【表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動習慣や経験の個人差が大きく、運動習慣がない児童は外に出て遊ぶことが少ない。 学習に対し、見通しや目標をもって取り組むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードや学習資料、ICT 機器を活用することで、運動に親しみながら自分の課題をつかめるようにする。【発見】 個人だけでなくペアやグループで活動を取り入れることで、教え合いや場、運動の仕方を選択することができるようにする。【対話・決定】 活動ごとに学習カードを使い ポイントを明確に示す。また、ペアやグループで見合い、アドバイスするなど、実態に応じた関わり合いの場面を意図的に設定する。【表現】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> フレーズの定着やそのフレーズを実際に活用する力に個人差がある。 書くことについて、大文字・小文字の判別や四本線の使い方を理解することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使う必然性をもった場面設定をする。【発見】習った、覚えたフレーズを練習する時間を授業内で設ける。また、英語を用いる活動を多く取り入れる。【対話】【表現】 歌やチャンツ、パズルなど楽しく学べ、取り組みやすい教材を工夫する。【発見】英語のノートやワークシートを活用して書く活動を取り入れる。【表現】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。